

NPO 法人 ala クルーズ平成 28 年度通常総会



5月15日(日)午前11時より、特定非営利活動法人alaクルーズの平成28年度通常総会がワークショップ洋室にて開催されました。来賓として、衛館長、山口局長、杉下課長、坂崎係長、齊藤さんらにご出席いただきました。堀尾理事より開会の言葉が発せられ、はじめに澤野理事長が「熊本大地震に遭われた方々の暮らしが、一刻も早く通常通りに戻れますよう祈っています。昨年度は財団の方やalaクルーズの皆さんには、ご協力いただきありがとうございました。今年度は役員改選を行いました。そのうえで、3回目の開催となる“笑刻展” 毎回好評な“イルミネーション” 財団との協力事業の“星野先生のスキルアップ研修” などに力を入れていきたいと思っています」と挨拶されました。次に総会定足数の報告があり、正会員46名のうち総会出席数23名、委任状16名で定款27条の規定により、総会の



成立が宣せられました。出席会員選出により奥田氏が議長に指名され議事に入りました。久米理事長より第1号議案の平成27年度事業報告、篠田理事より収支決算報告がなされ、三島、春見両監事より当事業報告並びに収支決算報告の内容が適正かつ正確であった旨の報告がなされました。次に第2号議案として、28年度及び29年度の組織役員変更の案が出され、満場一致で可決されました。続いて第3号議案の平成28年度事業計画(案)並びに事業決算(案)が提出され、両案とも全会一致の拍手を持って承認されました。続いて来賓の紹介があり、衛館長が「文化庁からアーラ事業等を全国展開にしようという話が出ています。その為にも、このアーラが全国モデルになるような劇場に行きたいと思っています。館長に就任して9年になり、次の世代に何を残していかなければならないか、職員の皆さんに伝えるもの、残せるものは何かと考えています。今年もalaクルーズの皆さんとともに前進したいと思います」とのご挨拶をいただきました。最後に、三島理事の閉会の言葉により終了しました。その後、創造スタッフルームにて来賓の方々とともに、和やかに交流会が行われました。



“世界劇場国際フォーラム 2016 in 可児”



平成28年2月12日(金)12時から開場する“世界劇場国際フォーラム2016 in 可児”に向けてのalaクルーズの準備が、10時半よりスタッフ室で始まりました。時間割・役割の確認、身だしなみのチェックなど一応の準備を終えた後、早めの昼食をとり、すぐに開催場所である小劇場に向かいます。12時の受付開始時間が近づくにつれて、財団のスタッフやクルーズの緊張も伝わってきます。入場が始まるとクロークや明日に向けての参加者の弁当の予約受付などで慌ただしくなりました。フォーラムに

参加された皆さんの中にはキャリアケースを持った人も多く、遠くから来場されたことがわかります。13時、可児市長の挨拶で“世界劇場国際会議フォーラム2016 in 可児”の幕が開き、まず衛館長の基調講演です。「文化芸術は子ども、若者や高齢者、障がい者、失業者、在留外国人にも社会参加の機会を開く社会的基盤となり得るものであり、そのような社会包摂の機能も注目されつつある」とした「文化芸術の振興に向けての基本方針」により、文化芸術の公的支援の考え方を従来の社会的費用から社会的必要に基づく戦略的な投資と捉える政策転換がなされ、それに対応した「アーマち元気プロジェクト」「私の足長おじさんプロジェクトfor Family」などの可児市文化創造センターの取り組みが紹介されました。投資という表現にはいわゆる結果が問われる、今まで以上の成果が求められる観があります。館長が話された「劇場もアーティストも社会に試される時を迎えることになった」という課題です。今、社会は高齢化が進行中



です。病に至らないまでも、明日の自分に意欲が持てない人たちに、元気を処方してくれる有力なものの一つが劇場での“出会い”であると思っています。出会いは人それぞれで異なりますが、今日のフォーラムに参加された方々もそれぞれの胸に去来する思いや宿題を抱いて持ち場に帰っていかれるに違いありません。地元でどんなアクションを起こされるのでしょうか。パネリストの方々の思いが全国に広がって行けば良いなと思いました。



“世界劇場国際フォーラム2016 in 可児”

“世界劇場国際フォーラム2016 in 可児” 2日目。参加者は約130名。9時30分の受付に備えて、フロントスタッフは身だしなみ、受け入れる気持ちにもスイッチを入れ背筋と心がピンと伸びています。円陣を組みリーダーの説明・注意事項などの打ち合わせ時には、まだ緊張感が漂っていましたが、参加者の方が続々と入場してこられた開館時刻前には、いつもの笑顔で迎え入れることができました。昨年の反省を生かしたクロー



クも混雑することなくスムーズに流れ、座席へと誘導することができました。日本各地から、また海外からも参加されている劇場関係参加者の方の中で、ある方は「素晴らしい対応ですね。ボランティアのグループとは思えないほど毅然とした態度と優しさがありますね」と感心されていました。事例報告として、「アーツは魂のサンクチュアリを実現できるか」の題材のもと、これからの地域劇場はNPOとの協働によるコミュニティ・アプローチが必須となる。ホームレスの就労支援、認知症高齢者の劇団活動、障がい児と健常児の舞台づくりなど、地域に密着して包摂型プログラムを行っている団体代表の3名のパネラーの発表と、財団3名の

コーディネーターとの質疑応答が始まると、フロントスタッフは決められたポジションで見守り待機です。昼食を挟み、午後からは「演劇と認知症治療の実証的可能性」の題材のもと、2名の方が事例報告を発表され、次に「社会は劇場に何を求めているのか～「人間の家」へ」と題し海外からのパネラーも含め発表がありました。その発表に俳優介護福祉士で「老いと演劇」OiBokkeShi(オイ・ボッケ・シ)主宰の菅原直樹氏は89歳の認知症のおじいさんと演劇を行っています。「お年寄りほどよい演劇者はいない、介護者は認知症の人に注意をするのではなく、俳優になるべきだ」と話し、実際の駅前商店街を俳優とともに



もに観客が認知症高齢者を探索しながら演劇を鑑賞する「市街劇」を生み出しています。商店街の住民との共同演劇なのです。今、高齢者の問題を抱えた現在社会にとって考えさせられる発表でした。質疑応答の後、コメンテータに館長を迎え統括セッションが行われ、来年もこのアールで“世界劇場会議国際フォーラム”を開催しようとの約束で終演となりました。

新役員紹介



理事長	澤野 親司
副理事長	久米 房美
書記	土田 純子
会計	荒金アサコ
理事	寺松美津利
//	堀尾美智子
//	三島 妙子
監事	瀬瀬 洋子
//	巾 ひとみ

平成28年度事業予定



・フロントスタッフ活動

財団主催事業及び市民団体へのフロントスタッフ活動の協力。養成講座の開催などを行う。また研修などを実施しレベルアップを図る



・岩崎祐司 パロディー笑刻展

8月20日～28日美術ロフトにて笑刻展を開催致します。かの坂本龍馬が映画『ローマの休日』でオードリー・ヘップバーンを乗せたと思しきスクーターに跨っている代表作の木彫り『リョーマの休日』が新しい笑いを引き連れてアーラに参上。“おもわず吹き出す笑刻の世界” 笑いは健康の万能薬を充分満喫してください。



・イルミネーション2016

冬の夜アーラを飾るイルミネーションの制作から設置、点灯を行います。9回目となる今年。ただいま企画検討中です。



・ランプシェード制作

イルミネーション点灯式に合わせ、一般募集で親子、家族で参加しランプシェードを制作します。



・広報紙発行

年間数回広報紙を発行し会員及び市民の皆さんと情報の発信を行います。

・インターネットの活用

ホームページを活用して、alaクルーズの活動を多くの人に知っていただくことと広報紙とは異なった形で情報を発信する。

・世界劇場会議国際フォーラム2017 in 可児への協力

国内はもとより海外からも関係者がアーラに来館されます。おもてなしの気持ちを十分発揮して、このフォーラムが成功裡のうちに終わられるよう協力する。



・会員相互のコミュニケーションを図る

一層の信頼関係を築いていくために、交流会や親睦会・研修会を企画実施する。

・理事会並びに会員の定例会議の開催

クルーズの運営や活動を円滑に行うため、毎月定例理事会及び会員会議を開催する。

編集後記

桜が咲き、そして散った。今はバラの花が全開である。気が付けば、もう6月。1年の半分が終わろうとしている。時間のスピードが速いといつも思うけれど、一向に待ってくれない。今日やれることは今日やろう。時間は多く残っていないのだから。今年こそは、と決意したけれどそれもまだできていない。そして今、この編集後記も締切日に追い立てられながら書いている。(0)

alaクルーズ事務局 TEL/FAX : 0574-61-3414
<http://www.kpac.or.jp/ala-crews/>
Mail : ala-crews@kpac.or.jp

ala クルーズ

戻る